鏡野町の比率は、岡山県の平均16.8%を大きく上回り、県下27市町村の中で高い順に上から10番目、県下12町村では5番目に位置しています。そこで、鏡野町では計画的に繰上償還を行い、また借入の抑制に努めて後年度の負担軽減を図ることとしています。

(4) 将来負担比率

地方公共団体の地方債や将来支払わなければならない可能性のある負担等の残高を年度末(3月31日)時点で算定し、すべての負担を含めた負担額を「財源の規模」と比較して指標化したものが「将来負担比率」です。

地方公共団体の一般会計が将来支払っていく負債には、一般会計の地方債残高のほか、将来の支払を約束したものの(債務負担行為)、町職員の退職手当、公営企業会計など他の会計の地方債残高のうち一般会計が負担するべきものと見込まれるものなどがあります。

平成19年度における鏡野町の将来負担比率は、45.5%となりました。なお、この「将来負担比率」の算定にあたっては、将来負担額の財源として充てることができる基金(預金)残高および特定財源等を控除しています。

(5) 資金不足比率

病院事業、水道事業、下水道事業など公営企業の資金不足を、料金収入等の規模で示される「事業規模」と比較して指標化し、各公営企業会計の経営状況の深刻度を示すのが「資金不足比率」です。

■ 資金不足比率

(単位: %)

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準比率
国民健康保険病院事業会計	—	20.0
水道事業会計	—	20.0
簡易水道特別会計	—	20.0
香々美簡易水道特別会計	—	20.0
公共下水道特別会計	—	20.0
農業集落排水事業特別会計	—	20.0
林業集落排水事業特別会計	—	20.0

備考 1 各会計において、資金不足額が生じないため「—」表示で記載しています。
2 各比率が、経営健全化基準を上回る場合は、自主的経営改善努力が義務付けられる。

参考

平成19年度鏡野町各会計決算の状況

(単位: 千円)

会計名		歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額
一般会計		11,382,180	10,686,861	695,319
特別会計	津山・富線共同バス運行事業特別会計	4,939	4,536	403
	奨学会特別会計	7,746	2,305	5,441
	飲料水供給施設等特別会計	15,491	15,491	0
	越畑飲料水供給施設特別会計	2,631	1,151	1,480
	国民健康保険特別会計	2,047,122	1,877,068	170,054
	老人保健特別会計	2,082,626	2,082,495	131
	介護保険特別会計	1,337,658	1,310,758	26,900
	簡易水道特別会計	634,855	634,855	0
	香々美簡易水道特別会計	6,896	4,590	2,306
	農業集落排水事業特別会計	332,963	332,934	29
	林業集落排水事業特別会計	13,002	13,001	1
	公共下水道特別会計	760,407	760,293	114
	第7財産区特別会計	3,472	760	2,712
	羽出財産区特別会計	2,607	432	2,175
富財産区特別会計	14,872	4,330	10,542	
企業会計	国民健康保険病院事業会計(収益的収支)	1,242,268	1,168,608	73,660
	水道事業会計(収益的収支)	230,020	215,574	14,446
合計		20,121,755	19,116,042	1,005,713

平成19年度における鏡野町の公営企業会計の資金不足比率は、上記の表のとおり全ての公営企業会計で実

質的な資金不足額が生じておらず、良好な経営状況となりました。